



市民のひろば

まちの声

◆不法広告が問題化

電柱や道路標識などに不法な広告が目にするくらい張られている。ある行政の方が難儀してはがしていたが、なかなかはがせず大変汚くなっていきます。一般の者は勝手に除去できないので

(土佐山田町 前田和夫)



作:山崎栄紀・宗石真奈 (山田高校マンガ部)



『大井平たまちゃん日記』
おばあちゃん おかえり
入院中さびしかったよ
おばあちゃんは いつもやさしいニヤ
フニャ〜ん たま しあわせ
いつまでも いっしょだニヤン♪

私は家族と一緒に日本の古い家に住んでいます。毎朝、家の庭で、いろいろな鳥が歌を歌ったり、虫が果物を食べたり、ダンスをしたり



日曜市からの帰り道、物部川沿いを夫と娘と

私は香美市の社会活動は日本のおもてなしだと思えます。このような日本のおもてなしにとても感動しています。ですから香美市での留学体験は私の心の中で永遠に忘れることはないだろうとも思います。

香美市の皆さん、こんにちは。私は高知工科大学大学院博士1年、専門はフロンティア工学です。昨年10月に入学したので、この暮らしは7ヶ月になります。香美市の景色はとてもきれいです。山や川や田んぼがあります。だから空気はとても新鮮ですね。

片地の桜公園がとてもきれいで、まるで絵のようです。『鏡野公園』という名前は、『鏡』の公園ですね。私と家族は大勢の友達と一緒に花見をしました。

香美市には社会活動の機会がたくさんあります。私たちはその活動に参加し、協力して楽しんでいきます。例えば、『シカ食害対策イベント』では長い山路を歩きながら、香美市の山について勉強しました。また、『塩の道ウォーキング』のときは香美市の皆さんと一緒に歩いて、とても楽しかったです。

編集後記

今月号の表紙の写真に選んだ美良布保育園の『このぼり運動会』は、青空の下で行われました。初夏を感じさせる強い日差しを受け、園児の背丈までかかんて撮影をしていると、額から汗が流れてきました。

子どもの頃、運動会や遠足の前日の天気が悪いと『てるてる坊主』を作っていました。自分には『てるてる坊主』を作る坊主 あしたの天気にしておくれ』と歌っていた記憶がなく、調べてみると歌詞は3番まであり「晴れなかつたら首をちよん切る」という内容で伝わり、江戸時代にはつるされていたという『てるてる坊主』。当時はユーモアで作られた歌だったのでしようが、頼んでおいてそれはない。



(細木)

香美史探訪記

第2回 南喜ヶ峰疎水と水力発電 土佐山田町 久次・平山・繁藤



新改川水争いの碑

南喜ヶ峰疎水 県道前浜植野線の植三差路を西進すると、国分川の上改田橋から西南に、久次宇佐八幡宮の森が見える。この神社の境内には「新改川水争いの碑」が建てられている。

約400年前、国分川兩岸の低地は、新改川に堰を築き、これから導水する水田地帯となっていた。約350年前、上流にコロンボ堰が築かれ、須江上段に新田を開き、元禄14年(1701年)の藩令により水量の取り分が決められていた。

明治6・7年、この地域は大干ばつに見舞われた。久次・植田など本田と須江新田の農民が、コロンボ堰をめぐる水争いとなり、明治19年、大審院の裁定で同21年、両者の間で分水規約書が作成された。新改川では干ばつの時、水量が不足するので穴内川からの疎水が計画されることになった。明治29年10月、南喜ヶ峰トンネル水路の掘削を開始したが、925mは難工事となった。内部での人力作業に酸素不足が発生し、工夫の奥さんも動員して「唐箕(とうみ)」を並べてのリレー方式で風を送るなどして、3年9ヶ月を要し明治33年7月、待望の貫通となった。

この「南喜ヶ峰疎水」の完成で国分川流域での干ばつは起こらなくなり、明治42年には鏡野川が開通して山田町の生活・防火用水が確保され、土佐山田駅北側の畑地80ヘクタールを水田とすることもできた。

高知県水力発電発祥の地 平山 南喜ヶ峰疎水の落差を利用する水力発電所建設を土佐山田町平山に計画した県知事宗像政は、県議会にこれを提案したが、西日本では琵琶湖疎水に次ぐ2番目ということもあって紛糾し「水から火ができるか?」「針金にどうやって穴を開けるか?」と言われたという。知事は気長に説得して、明治42年2月11日に、高知県で最初の水力発電所である平山発電所(出力1080kW)が完成し、1市4郡の電力需要を賄った。同様に大正8年には、新改第二発電所が完成された。旧平山小学校前の谷川を上流に進めば、平山発電所跡に着く。ここには、県電気記念日実行委員会が昭和53年に建てた記念碑がある。題額の『流れを逐って源を忘る勿れ』は、当時高知県知事宗像政氏の書であり、説明に『電気百年の記念日にあたり電気史跡として之を建て後世に残す』とある。



南喜ヶ峰疎水トンネル出口

南喜ヶ峰疎水取水口跡 平山発電所跡をさらに上流に向かい、水路跡の『電力私有地立入禁止』と書かれた看板を取り付けたフェンスで囲まれた敷物の道を300メートルほど進むと、疎水トンネル出口の赤レンガに着く。ここには、当時の県知事石原健三氏の書が掲げられ『永頼』と書かれている。また、県道を高速道路の下に進むと『繁藤ダム』に着く。そこに当時の内務大臣板垣退助が、郷土における本事業のため、外国人技師デレーケを派遣し、取水口は天然の好位置であると言われた『鬼頓房瀧(ひとんぼぶち)』がある。現在はダムのため取水口の堤防と取水口がわずかに見られる。(香美史談会)